

動物実験に関する自己点検・評価報告書  
(令和4年度)

大学共同利用機関法人自然科学研究機構動物実験委員会

令和5年12月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・自然科学研究機構動物実験規程（平成19年2月23日自機規程第68号） ・自然科学研究機構動物実験委員会等規程（平成27年10月1日自機規程第105号） ・自然科学研究機構動物実験委員会申合せ（平成27年10月30日委員会決定）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 動物実験規程及び動物実験委員会等規程が定められ、適正に運用されている。本年度は、国立大学法人動物実験施設協議会が作成している機関内規程ひな型第4版に即して、動物実験規程の見直しを行った（令和5年3月23日最終改正）。新しい規程は令和5年4月から施行される。令和5年度は新しい規程に則り、管理体制や手順書、教育訓練などを見直し、動物実験および飼養保管の適正化をさらに進めていくこととした。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・自然科学研究機構動物実験規程 ・自然科学研究機構動物実験委員会等規程 ・令和4年度自然科学研究機構動物実験委員会委員名簿 ・自然科学研究機構動物実験委員会申合せ
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 自然科学研究機構動物実験委員会が設置され、文部科学省の動物実験基本指針に則して適正に運営されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし

3. 動物実験の実施体制

<p>1) 評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。</li><li><input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。</li><li><input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められていない。</li></ul>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自然科学研究機構動物実験規程</li><li>・自然科学研究機構動物実験委員会等規程</li><li>・自然科学研究機構動物実験委員会申合せ</li><li>・動物実験計画書（新規・継続・変更）（様式第1号）</li><li>・動物実験結果（中止・終了）報告書（様式第2号）</li><li>・実験動物飼養保管施設設置承認申請書（様式第3号）</li><li>・動物実験室設置承認申請書（様式第4号）</li><li>・（実験動物飼養保管施設・動物実験室）変更承認申請書（様式第5号）</li><li>・施設等（飼養保管施設・動物実験室）廃止届（様式第6号）</li><li>・動物実験計画に係る届出書</li><li>・動物実験計画に係る届出書（実験実施者、飼養者及び来訪研究員の追加）</li><li>・施設等に係る変更届</li><li>・様式第1号「動物実験計画書」記入上の注意</li><li>・動物実験を行う上での留意事項</li></ul>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）</p> <p>自然科学研究機構の動物実験規程、動物実験委員会等規程及び各種様式類が定められ、動物実験が適正に実施されている。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>特になし</p>

#### 4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

<p>1) 評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められている。</li><li><input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。</li><li><input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められていない。</li><li><input type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。</li></ul>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自然科学研究機構生理学研究所遺伝子組換え実験安全管理規則 （平成17年11月22日生研規則第4号）</li><li>・自然科学研究機構基礎生物学研究所遺伝子組換え実験安全管理規則 （平成18年8月1日基研規則第4号）</li></ul>

<ul style="list-style-type: none"><li>・自然科学研究機構岡崎共通研究施設アイソトープ実験センター 明大寺地区実験施設放射線障害予防規則 (平成16年4月1日岡共規則第4号)</li><li>・自然科学研究機構生理学研究所毒物及び劇物等管理規則 (平成16年4月1日生研規則第21号)</li><li>・自然科学研究機構基礎生物学研究所毒物及び劇物等管理規則 (平成16年4月1日基研規則第21号)</li><li>・自然科学研究機構分子科学研究所毒物及び劇物等管理規則 (平成16年4月1日分研規則第29号)</li><li>・自然科学研究機構生理学研究所研究用微生物等安全管理規則 (平成25年10月1日生研規則第2号)</li><li>・特定動物飼養・保管許可証(ニホンザル、ミドリザル)</li><li>・令和4年度 動物実験計画書</li></ul>
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) 安全管理に関する規則等が定められ適正に運用されている。遺伝子組換え動物実験、研究用微生物等を用いる動物実験、放射線を用いる動物実験は関連委員会等の承認を受けている。麻薬・覚醒剤・向精神薬の使用と特定動物の飼養・保管については行政への必要な手続きを行っている。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし

## 5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果 <ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。</li><li><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</li><li><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</li></ul>
2) 自己点検の対象とした資料 <ul style="list-style-type: none"><li>・自然科学研究機構動物実験規程</li><li>・実験動物飼養保管施設設置承認申請書(様式第3号)</li><li>・(実験動物飼養保管施設・動物実験室)変更承認申請書(様式第5号)</li><li>・動物実験施設等(飼養保管施設・動物実験室)廃止届(様式第6号)</li><li>・施設等に係る変更届</li><li>・「実験動物飼養保管施設設置承認申請書」に関する主たる判断基準</li><li>・「動物実験室設置承認申請書」に関する主たる判断基準</li><li>・実験動物飼養保管施設実地調査チェックシート</li><li>・霊長類の飼育と使用に関するガイドライン</li><li>・実験動物飼養保管マニュアル</li></ul>

<ul style="list-style-type: none"><li>・動物実験室利用マニュアル</li><li>・災害対策マニュアル</li><li>・サル実験飼育室マニュアル</li><li>・危機管理・対応マニュアル（生理学研究所 安全衛生小委員会作成）</li></ul>
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 飼養保管施設の設置承認申請に際しては、飼養保管マニュアルと災害対策マニュアルの添付を義務づけたうえ、動物実験委員会委員による書面審査と「主たる判断基準」に基づいた実地調査を行っており、適正に運用されている。 霊長類を使用した動物実験に対しては、「霊長類の飼育と使用に関するガイドライン」、「サル実験飼育室マニュアル」を作成したうえ、サル講習会を毎年開催している。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

特になし
------

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・自然科学研究機構動物実験委員会の議事次第 第30回（令和4年6月28日）、第31回（令和4年11月29日）、第32回（令和5年2月22日） ・自然科学研究機構動物実験委員会（第30-32回）の議事要旨 ・動物実験計画書審査の委員会意見
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 自然科学研究機構動物実験規程、自然科学研究機構動物実験委員会等規程及び自然科学研究機構動物実験委員会申合せに基づき委員会を開催し、動物実験計画書の審査など適正に機能を果たしている。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし

## 2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果 <input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・令和4年度動物実験計画書 ・動物実験計画の実施について（通知） ・動物実験計画書審査の委員会意見 ・動物実験結果（中止・終了）報告書 ・動物実験自己点検票 ・動物実験計画に係る変更届 ・手順書・マニュアル（動物資源共同利用研究センター等）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験計画書の審査・承認並びに実施結果報告等が行われ、動物実験結果報告書（様式第2号）は100%回収されている。 マウスおよびラットの取扱いにおいて不適切な事例がそれぞれ1件発生したことから、動物実験委員長の指示により当該部署における再発防止の対応策を実施した(令和5年3月までに実施)。事例発生の内容や経緯を検証し、動物実験委員会の審議に基づき、手順書・マニュアルの見直し等の再発防止を図った(令和5年12月までに実施)。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし

## 3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・令和4年度 動物実験計画書 ・動物実験結果（中止・終了）報告書 ・実験動物飼養保管施設設置承認申請書 ・動物実験室設置承認申請書 ・実験動物飼養保管施設に関する調査 ・岡崎3機関安全衛生委員会 令和4年度会議資料

・生理学研究所ヒヤリハット報告書
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 安全管理を要する動物実験が各規程を遵守しつつ、適正かつ安全に実施されている。施設には安全設備が整備され、適切に運用されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし

#### 4. 実験動物の飼養保管状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・実験動物飼養保管施設 飼養保管マニュアル ・実験動物飼養保管施設に関する調査 ・生理学研究所ヒヤリハット報告書
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 適切な実験動物の飼養保管が実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし

#### 5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に維持管理されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・実験動物飼養保管施設設置承認申請書 ・動物実験室設置承認申請書 ・施設等に係る変更届 ・「実験動物飼養保管施設設置承認申請書」に関する主たる判断基準 ・「動物実験室設置承認申請書」に関する主たる判断基準 ・実験動物飼養保管施設に関する調査 ・動物資源共同利用研究センター運営委員会 令和4年度事業報告 ・動物実験室利用マニュアル ・実験動物飼養保管施設 飼養保管マニュアル

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 飼養保管施設および動物実験室は適正に維持管理されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし

## 6. 教育訓練の実施状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・教育訓練講習会実施実績（別紙2） ・令和4年度教育訓練講習会受講者名簿 ・教育訓練講習会テキスト ・サル講習会実施ファイル ・動物資源共同利用研究センター運営委員会 令和4年度事業報告
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 3年度ごとに実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者に対して教育訓練講習会の受講を義務づけている。また、外国人および体験学習等の実習で一時的に来所する者に対してはDVDによる講習を行っている。動物資源共同利用研究センターは、マウス・ラットを用いた基礎的手法の習得を図るため、初心者を対象に実験動物取扱実技講習会を実施している。岡崎3機関、特に生理学研究所ではサルを使用した研究が行われており、それに対応したサル講習会が毎年開催されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 特になし

## 7. 自己点検・評価、情報公開

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 動物実験等に関する自己点検・評価報告書（令和2年度）、（令和3年度）（令和4年度：本報告書）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 自己点検・評価報告書はホームページ( <a href="https://www.nins.jp/open/post_32.html">https://www.nins.jp/open/post_32.html</a> )で公開している。

また、検証結果報告書及び検証実施証明書も公開している。自然科学研究機構動物実験委員会委員構成と個人名も公開し、文部科学省の動物実験基本指針に則した委員構成としている。

4) 改善の方針、達成予定時期

特になし

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

特になし

別紙1 動物実験計画書および飼養保管施設について

1. 動物実験計画書および飼養保管施設等の集計（令和4年度）

研究所名	動物実験計画書の審査		飼養保管施設の設置状況	実験室の設置状況
	承認件数*1	取下げ件数		
生理学研究所	86	0	20	16
基礎生物学研究所	32	0	10	24
生命創成探究センター	1	0	0	0
合計	119	0	30	40

\*1 承認された動物実験計画の苦痛度スコア別内訳は以下の通り。

B：32件（生；26件、基；5件、生命；1件）

C：43件（生；35件、基；8件、生命；0件）

D：24件（生；22件、基；2件、生命；0件）

F：20件（生；3件、基；17件、生命；0件）

2. 主要な飼養保管施設の名称

- 1) 動物資源共同利用研究センター（明大寺地区、山手地区）
- 2) 基礎生物学研究所超階層生物学センター（明大寺地区、山手地区）

別紙2 教育訓練講習会実施実績

令和4年度講習会

名称	開催日	場所	参加人数			
			基生研	生理研	その他	合計
第1回 動物実験教育訓練講習会	4月13日	Zoom開催	11	9	0	20
第2回 動物実験教育訓練講習会	6月15日	Zoom開催	4	9	0	13
第3回 動物実験教育訓練講習会	8月23日	Zoom開催	2	9	2	13
第4回 動物実験教育訓練講習会	10月25日	Zoom開催	10	6	1	17
第5回 動物実験教育訓練講習会	12月7日	Zoom開催	3	6	0	9
第6回 動物実験教育訓練講習会	1月24日	Zoom開催	7	8	0	15
第7回 動物実験教育訓練講習会	3月7日	Zoom開催	6	11	0	17
英語版DVDによる講習	随時	DVD貸出	2	17	0	19
体験学習・実習等のためのDVD講習	随時	DVD貸出	6	13	0	19
生理研トレーニングコース	7月	Web受講			57	57

別紙3 動物種別使用数（処分数）

令和4年度（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類）

動物種名	合計
マウス	54,170
ラット	3,085
シリアンハムスター	125
サル類*1	14
ブタ	4
鳥類	0
爬虫類	12
両生類	868
魚類	15,717
総合計	73,995

\*1 ニホンザル10、コモンマーモセット4

別紙4 動物種別の飼養数

令和4年8月時点（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類）

動物種名	飼養数
野生型マウス	1,994
遺伝子組換えマウス	9,840
野生型ラット	89
遺伝子組換えラット	147
ハムスター	12
サル類*	82
遺伝子組換えサル類	0
鳥類	0
爬虫類	0
両生類	609
遺伝子組換え両生類	387
魚類	16,860
遺伝子組換え魚類	5,963
総合計	35,983

\* ニホンザル57、コモンマーモセット25